

宮崎県感染症週報

■ 宮崎県第20週の発生動向

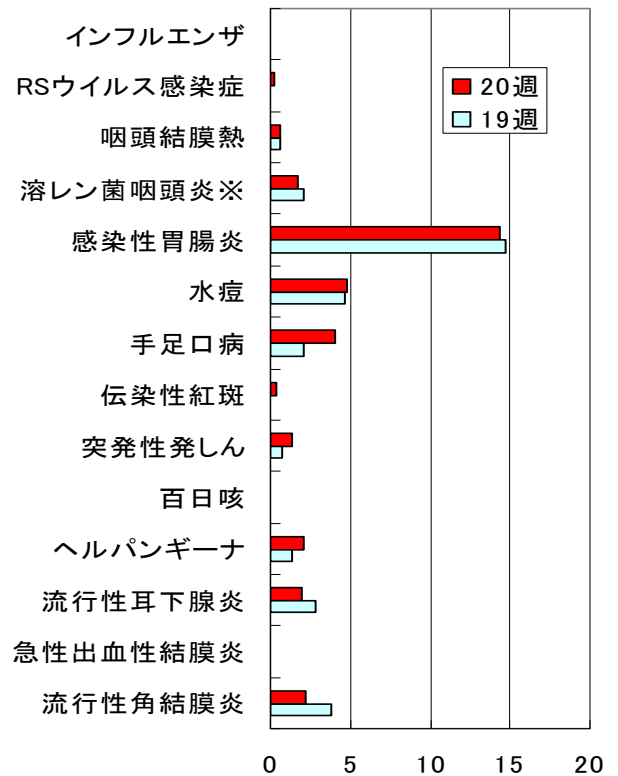
定点医療機関からの報告総数は1,137人(定点あたり33.4)で、前週比100%であった。

前週に比べ増加した主な疾患は、手足口病とヘルパンギーナで、減少した主な疾患は流行性耳下腺炎とA群溶血性レンサ球菌咽頭炎であった。

手足口病の報告数は144人(4.0)で前週比187%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(1.8)と比較すると約2.3倍と非常に多くなっている。中央(13.0)、小林(10.7)、日南(10.0)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から3歳で全体の約8割を占めた。

ヘルパンギーナの報告数は73人(2.0)で前週比155%と増加した。例年同時期の定点あたり平均値(0.7)と比較すると約2.9倍である。延岡(6.8)保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では1歳から2歳で全体の約7割を占めた。全て5歳以下の報告であった。

《前週との比較》



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

□ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
感染性胃腸炎	20	14.3	日南(25.0)、中央(22.0)	1歳~3歳で全体の約半数を占めた。
水痘	7	4.8	中央(10.0)、延岡(9.3)	6ヶ月~3歳で全体の約7割を占めた。
手足口病	5	4	中央(13.0)、小林(10.7)、 日南(10.0)	1歳~3歳で全体の約8割を占めた。
ヘルパンギーナ	6	2	延岡(6.8)	1歳~2歳で全体の約7割を占めた。 全て5歳以下の報告であった。
流行性耳下腺炎	6	1.9	日向(8.8)	3歳~5歳で全体の約半数を占めた。

■ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症： 報告なし。
- 2 類感染症： 結核 8 例が宮崎市（5 例）、小林・日向・中央（各 1 例）保健所から報告された。
 《宮崎市保健所》 ・ 60 歳代の男性で無症状病原体保有者。
 ・ 50 歳代の男性で肺結核。咳がみられた。
 ・ 50 歳代の女性で無症状病原体保有者。
 ・ 30 歳代の男性で肺結核。
 ・ 50 歳代の男性で結核性胸膜炎。発熱、胸痛がみられた。
 《小林保健所》 ・ 60 歳代の女性で結核性胸膜炎。発熱、呼吸困難がみられた。
 《日向保健所》 ・ 90 歳代の男性で結核性胸膜炎。発熱、胸痛がみられた。
 《中央保健所》 ・ 80 歳代の男性で肺結核。咳、痰、発熱がみられた。
- 3 類感染症： 腸管出血性大腸菌感染症 2 例が都城保健所から報告された。
 ・ 10 歳代の男子で腹痛、水様性下痢、血便がみられた。原因菌の血清型は O111（VT 産生）。
 ・ 80 歳代の男性で水様性下痢がみられた。原因菌の血清型は O126（VT 産生）。
- 4 類感染症： E 型肝炎 1 例が日南保健所から報告された。70 歳代の男性で黄疸がみられた。血清 IgM 抗体の検出。
- 5 類感染症： ○急性脳炎 1 例が宮崎市保健所から報告された。2 歳の女児で病原体はロタウイルス。発熱、痙攣、意識障害がみられた。
 ○後天性免疫不全症候群 1 例が宮崎市保健所から報告された。30 歳代の男性で A I D S。咳嗽、体重減少がみられた。

■ 病原体情報（衛生環境研究所 微生物部）

□ 細菌（平成 22 年 5 月 25 日までに分離同定）

同定細菌名	年齢(歳)	性別	採取月日	臨床診断名等	分離材料	分離同定日	衛研番号
病原血清型大腸菌(O111:H21)	0~4	女	4.23		便	5.11	10511
病原血清型大腸菌(O111:H21)	0~4	女	4.26		便	5.11	10512
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0~4	女	4.26		血液	5.10	10513
<i>Salmonella</i> Enteritidis (O9:g,m:-)	0~4	女	4.3		便	5.10	10514
病原血清型大腸菌(O111:H21)	0~4	女	4.3		便	5.17	10515

□ ウイルス（平成 22 年 5 月 25 日までに分離同定） 報告なし。

■ 全国第 19 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 17.1 で、前週（18 週）の報告が連休の影響で少なかったため、前週比 136%と増加した。また、前々週（17 週）と比較すると、96%とほぼ横ばいであった。今週増加した主な疾患はヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎で、減少した疾患はなかった。

ヘルパンギーナの報告数は 1,093 人（0.36）で、前週比 240%と増加した。高知県（1.9）、福岡県・宮崎県（各 1.3）、岩手県（1.1）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約 7 割を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の報告数は 5,010 人（1.7）で、前週比 202%と増加した。福井県（4.5）、山形県（3.6）、石川県（3.3）からの報告が多く、年齢別では 3 歳から 7 歳で約 7 割を占めた。

□ 全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 312 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 5 例、腸管出血性大腸菌感染症 16 例、腸チフス 1 例
- 4 類感染症 : A型肝炎 17 例、つつが虫病 6 例、日本紅斑熱 1 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 4 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 3 例、ウイルス性肝炎 3 例、急性脳炎 3 例、後天性免疫不全症候群 19 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 4 例、破傷風 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 2 例、風しん 1 例、麻しん 14 例

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第20週(05月17日～05月23日)

疾病名		第19週	第20週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	1										
	定点あたり	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	5	7		4	2			1			
	定点あたり	0.14	0.19	0.00	0.67	0.50	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	22	20	2	6	2	6		3			1
	定点あたり	0.61	0.56	0.20	1.00	0.50	2.00	0.00	0.75	0.00	0.00	1.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	75	62	14	1	25	9	3	8		1	1
	定点あたり	2.08	1.72	1.40	0.17	6.25	3.00	1.00	2.00	0.00	0.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	531	515	119	92	54	75	46	62	2	43	22
	定点あたり	14.75	14.31	11.90	15.33	13.50	25.00	15.33	15.50	2.00	10.75	22.00
水痘	報告数	170	173	50	24	37	15	10	11	2	14	10
	定点あたり	4.72	4.81	5.00	4.00	9.25	5.00	3.33	2.75	2.00	3.50	10.00
手足口病	報告数	77	144	21	20	11	30	32	10		7	13
	定点あたり	2.14	4.00	2.10	3.33	2.75	10.00	10.67	2.50	0.00	1.75	13.00
伝染性紅斑	報告数	1	7	2	2			1	2			
	定点あたり	0.03	0.19	0.20	0.33	0.00	0.00	0.33	0.50	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	26	47	10	12	5	4	5	6		3	2
	定点あたり	0.72	1.31	1.00	2.00	1.25	1.33	1.67	1.50	0.00	0.75	2.00
百日咳	報告数		1					1				
	定点あたり	0.00	0.03	0.00	0.00	0.00	0.00	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	47	73	22	6	27		1	5		8	4
	定点あたり	1.31	2.03	2.20	1.00	6.75	0.00	0.33	1.25	0.00	2.00	4.00
流行性耳下腺炎	報告数	103	70	2	2	22		4	2		35	3
	定点あたり	2.86	1.94	0.20	0.33	5.50	0.00	1.33	0.50	0.00	8.75	3.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	23	13	11	2							
	定点あたり	3.83	2.17	3.67	1.00	0.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～20週)

2類感染症	結核	65例(8)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	11例(2)			
4類感染症	E型肝炎	1例(1)	A型肝炎	3例	つつが虫病
	マラリア	1例	レジオネラ症	1例	
5類感染症	ウイルス性肝炎	6例	急性脳炎	5例(1)	後天性免疫不全症候群
	梅毒	4例	破傷風	2例	麻しん

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

ヘルパンギーナが増えています。(5月17日～5月23日)

ヘルパンギーナは一般に夏かぜといわれ、夏に流行する病気で、小さい子どもたちが多く感染します。今年は例年の同じ時期と比べると報告数が多くなっています。

この病気はウイルスに感染し 2～4 日の潜伏期間の後、突然 38 度以上の発熱、口の中に小さな水ぶくれができます。水ぶくれは上あごからのどの奥のほうにできます。熱は 2～4 日でさがり、他の症状も一週間ほどでおさまりますが、水ぶくれが破れて口の中に痛みがあるので食事や水分が十分にとれなくなることがあり、脱水症状を起こしやすくなります。

患者さんの咳やくしゃみ、唾液の飛沫によって感染したり（飛沫感染）、排出されたウイルスが手などを介して口の中に入り感染（経口・接触感染）します。このウイルスは主にお腹の中（腸管）で増えますが、治った後も 3～4 週間はウイルスが便の中に排出されるので、排便後、おむつ交換後には必ず手を洗いましょう。

また、手足口病も流行しています。1 歳から 3 歳の子ども達が多く感染しています。

どちらの病気も予防方法は、石けんでの手洗いとうがいをしっかり行うことです。